

Lab News

テーマ “心エコーにおけるドプラ法による左室拡張能評価”

拡張心不全(diastolic failure)は収縮性は良好だが拡張性の低下により心不全を発症する病態を指します。

そのため、心不全患者において左室拡張能を評価する必要があります。今回、心エコー検査におけるドプラ法による左室拡張能の評価方法を紹介します。

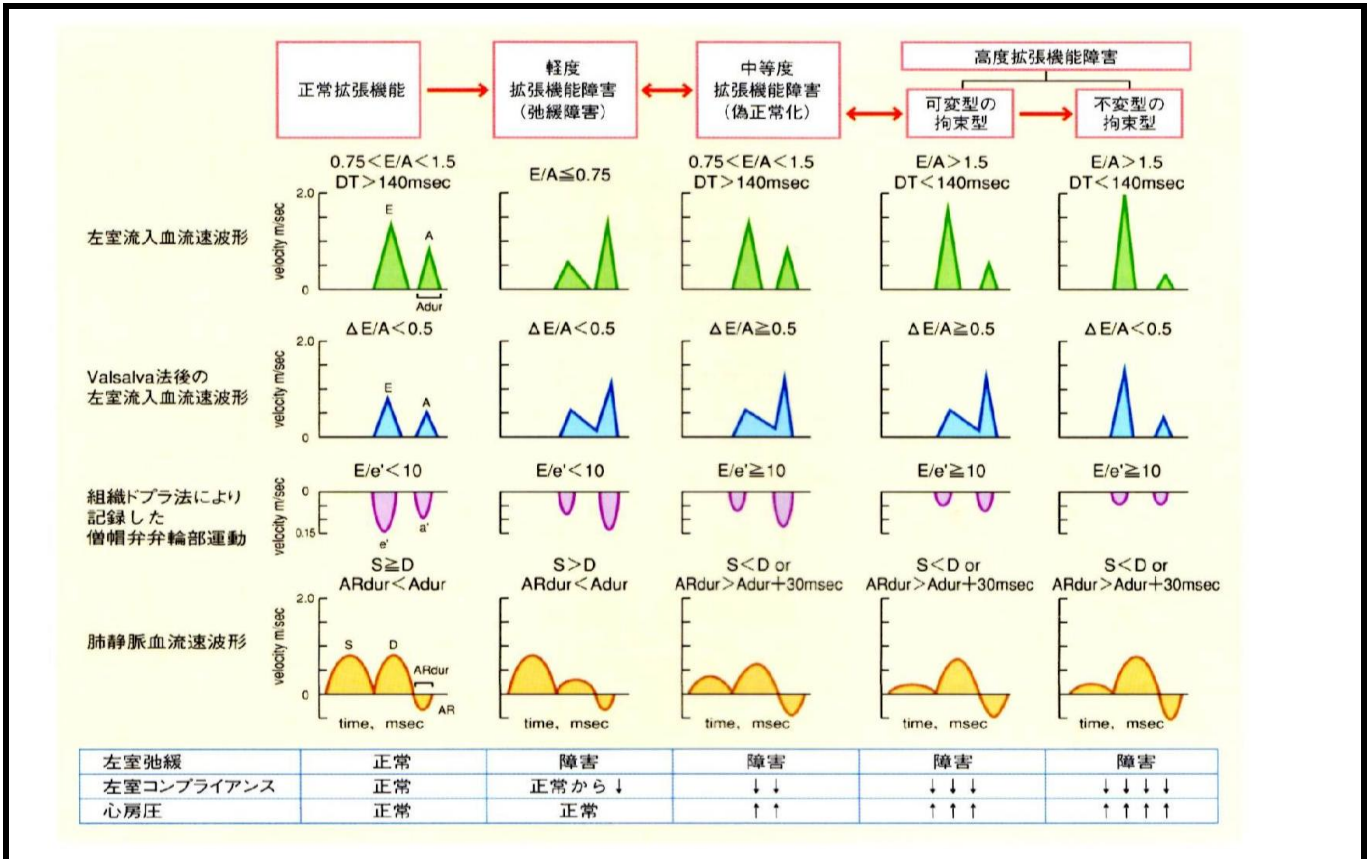


図 1. 拡張能の指標と拡張機能障害の分類

- 1) E/A でパターン分類をする。一見正常であっても、偽正常化の可能性も考慮し鑑別が必要
- 2) バルサルバ負荷による E/A の変化、肺静脈血流速波形、E/e' の所見を組み合わせる。

(注意) 評価をするにあたりいくつかの限界点や留意すべきポイントがある。

- E/A、肺静脈血流速波形は年齢、不整脈、心拍数、左房圧(前負荷)など影響を受ける因子がある。
- 組織ドプラ法による評価は加齢、僧帽弁の影響、測定部位による差を考慮する必要がある。

<まとめ>・心エコー・ドプラ検査は左室拡張能を類推する上で必要不可欠な検査である。

- 年齢、不整脈、心拍数、左房圧(前負荷)などの影響を受けるため、単一の指標でなく各指標を組み合わせ、さらに症状、理学的所見も参考にして評価をする。

文献:(図1)Redfield,MM et al : Burden of systolic and diastolic ventricular dysfunction in the community:appreciating

The Scope the heart failure epidemic.JAMA289:194-202,2003 より引用改変: 心エコー(2009年1月号)